

実技検査の受け方

情報技術科

- 1 指示があるまで、下の問題用紙を見てはいけません。
- 2 指示があったら、問題用紙（7 枚）を全部調べなさい。
問題用紙はすべてオモテだけに印刷してあります。もし、枚数が足りなかったり、やぶれていたり、印刷のわるいところがあったりした場合は、手をあげて監督の先生に言いなさい。
- 3 この実技検査では、問題用紙の条件や指示に従ってパソコンを操作し、文書を作ります。
作った文書は、U S B メモリに保存した後、プリンタで印刷して提出します。プリンタでの印刷は、検査が終わってから監督の先生の指示に従って行いますから、検査中に印刷してはいけません。
- 4 検査時間は 30 分です。残り 5 分になったときに、監督の先生から連絡がありますから、検査中に時間をたずねてはいけません。
- 5 保存のしかたやプログラムの使い方の説明は、問題用紙の中にあります。
- 6 作業が終わっても、プログラムを終了してはいけません。
- 7 検査中になにか困ったことがあった場合は、手をあげて監督の先生に言いなさい。
- 8 早く終わった人は、終了の指示があるまで静かに待っていなさい。

問 題 用 紙

情報技術科

- 【1】この検査ではワープロソフト Word を使用して A 4 縦の文書を作成します。はじめに配布している Word データから編集画面を開きます。書式の設定は、指示されたもの以外変更してはいけません。

画面下のタスクバーの「Word」のアイコンをクリックします。



- 【2】下の文章を、入力しなさい。なお、文章内の矢印は改行の印です。

受検番号：○○○○←

1 行目から

人工知能←

人工知能は 1 9 5 0 年代に誕生し、近年は機械学習や深層学習の進展により急速に精度が向上している。これを実現する手法のひとつであるニューラルネットワークは、生物の学習メカニズムを模倣したもので、人間の脳にあるニューロンと呼ばれる神経細胞の活動を参考にした機械学習手法として広く知られている。具体的には大量のデータを用いて学習し、その中から様々な特徴を自動的に抽出するもので、特に画像や音声の認識に優れている。←

現在は翻訳や対話など幅広い分野で活用されており、今後は倫理や安全性を重視しながら、人と協働する人工知能がさらに発展すると考えられる。←

以下の図 1 は、ニューラルネットワークをモデル化したものである。←

操作方法の例

- (1) 日本語入力のオン・オフは、キーボードにある半角/全角漢字のキーで切り替えます。最初、日本語入力はおフになっています。

半角/
全角
漢字

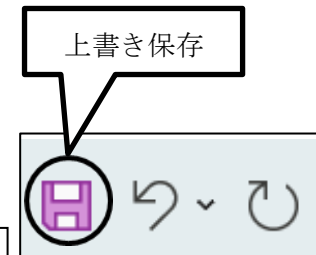
(2) 先頭行から「受検番号：」に続き、自分の受検番号を全角で入力します。またその後の文字や記号もすべて全角で入力します。

(3) 文章を入力します。

(4) 入力を間違えた時などは、画面左上の「元に戻す」のボタンをクリックすることでやり直すことができます。



(5) 入力が終わったら、画面左上の「上書き保存」のボタンをクリックして保存します。



画面右上の「×」ボタンをクリックしないように気を付けなさい。

【3】 【2】で入力した文章を、例のように編集しなさい。

例

中央揃え MSゴシック 26ポイント

右揃え

受検番号：〇〇〇〇←

人工知能←

人工知能は1950年代に誕生し、近年は機械学習や深層学習の進展により急速に精度が向上している。これを実現する手法のひとつであるニューラルネットワークは、生物の学習メカニズムを模倣したもので、人間の脳にあるニューロンと呼ばれる神経細胞の活動を参考にした機械学習手法として広く知られている。具体的には大量のデータを用いて学習し、その中から様々な特徴を自動的に抽出するもので、特に画像や音声の認識に優れている。←

現在は翻訳や対話など幅広い分野で活用されており、今後は倫理や安全性を重視しながら、人と協働する人工知能がさらに発展すると考えられる。←

以下の図1は、ニューラルネットワークをモデル化したものである。←

操作方法の例

(1) 行の配置の変更方法

- ①変更したい文字をマウスでドラッグすると、
右の図のように反転表示されます。



- ②「ホーム」メニューをクリックし、目的のフォントファミリー、フォントサイズを選択します。

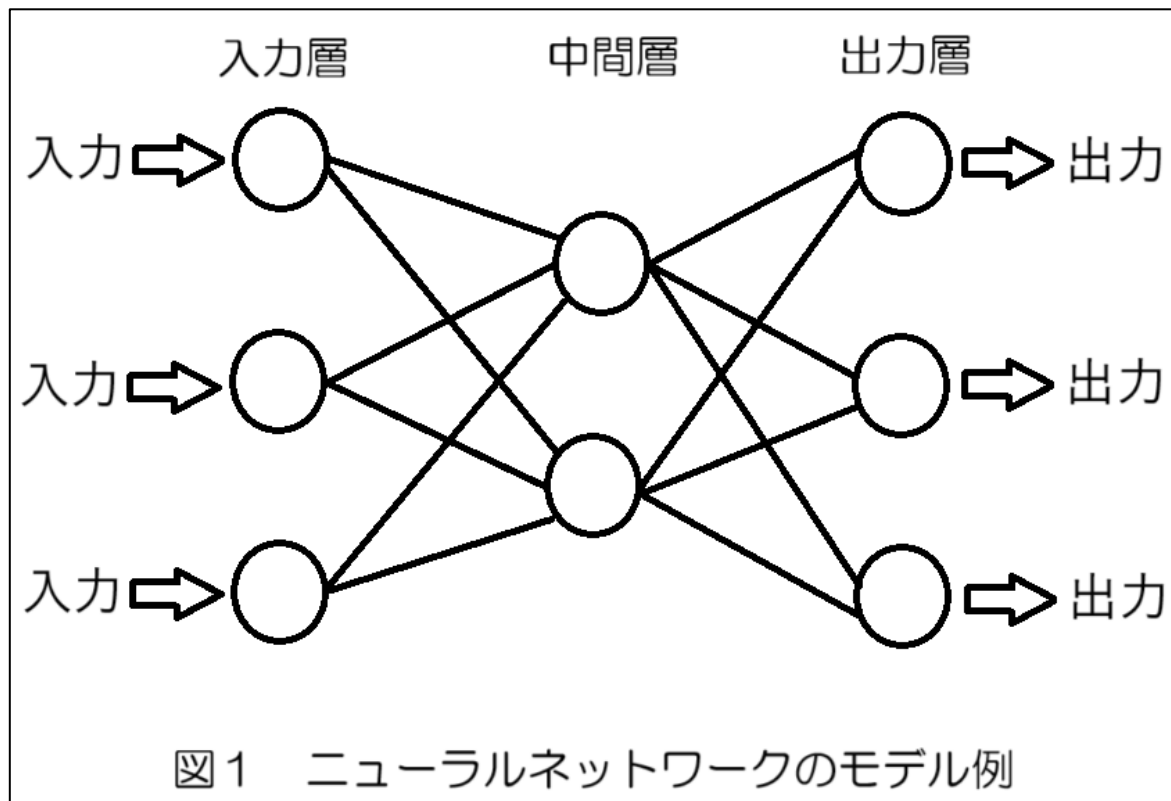
- ③右図のボタンから配置を選んでクリックします。



(2) 編集が終わったら、画面左上の「上書き保存」のボタンをクリックして保存します。

画面右上の「×」ボタンをクリックしないように気を付けなさい。

- 【4】 下のような図を描画ソフト「ペイント」を使ってかきなさい。また、かいた図を【3】で作成した文書に貼り付けなさい。図に使用する文字のフォントやサイズ、線の太さ、色は問いません。

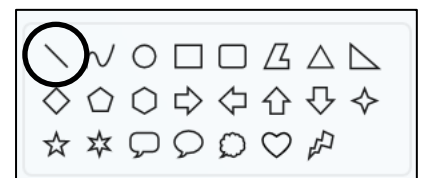


操作方法の例

- (1) 画面左下のタスクバーの「ペイント」のアイコンをクリックしてペイントの編集画面を開きます。



- (2) 水平・垂直な直線を引くにはメニューの図形から「直線」を選択し、シフトキーを押したまま直線を引きます。円や長方形なども図形から選択できます。



- (3) 文字の入力

① ツールから **A** をクリックします。



② 文字を入力したい場所でクリックし、文字のサイズや種類を選択します。

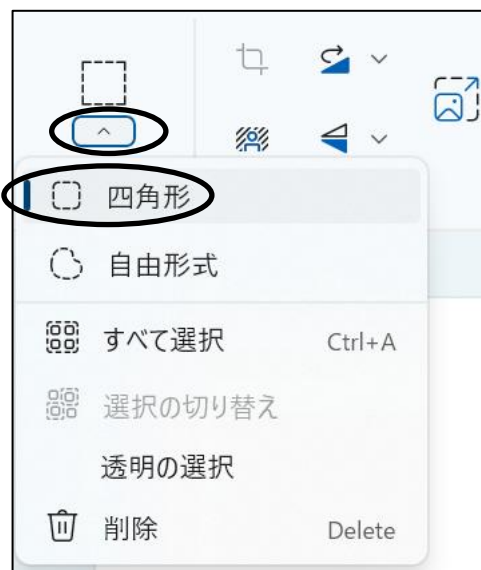
- (4) 描画が終わったら、画面左上の「上書き保存」のボタンをクリックして上書き保存します。



(5) 図のコピーと貼り付け

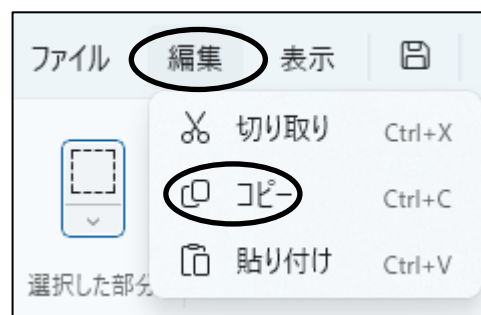
①画面左上の「選択した部分」にある破線四角形の下ボタンをクリックします。

②開いたメニューから、「四角形」を選んで描画した図をドラッグで囲みます。



③「編集」メニューをクリックします。

④「コピー」を選んでクリックします。

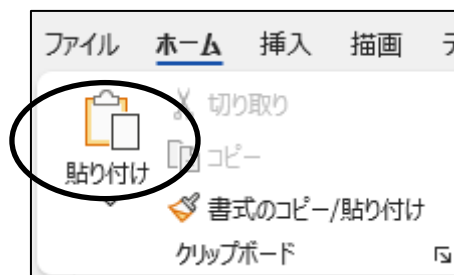


⑤コピー作業が終わったら、「Word」のアイコンをクリックします。

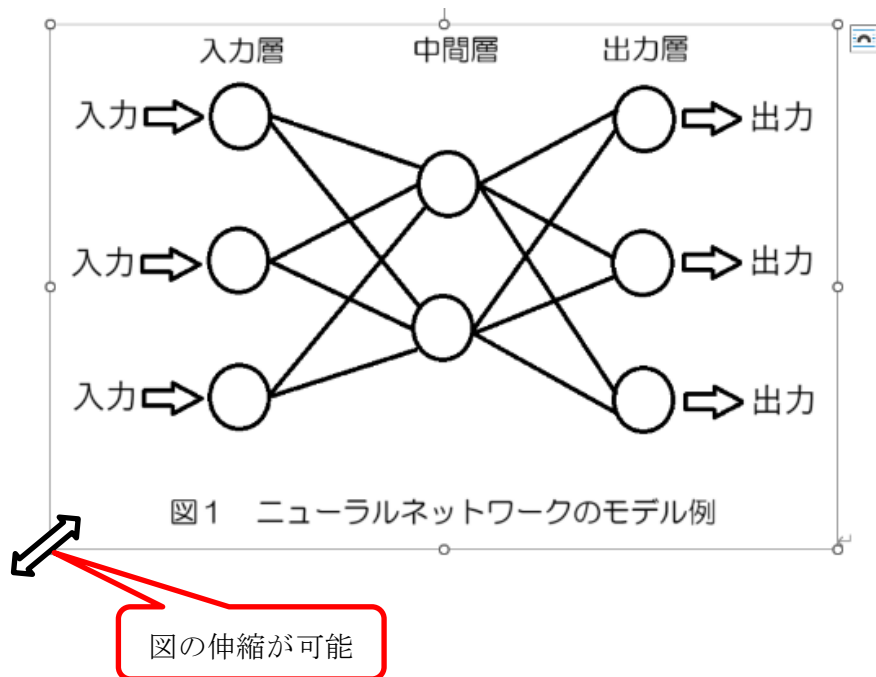


⑥図を挿入する行にカーソルを合わせます。(位置は7ページの完成した文書を参照)

⑦「ホーム」メニューを選択し、画面左上の「貼り付け」のボタンをクリックして図を貼り付けます。文書は必ず1ページにまとめます。2ページになった場合や図がはみ出す場合は⑧の調整を行います。



⑧貼り付けた図をクリックすると下の図のように選択されます。続いて図の角をドラッグして図の大きさを変えます。



人工知能←

人工知能は1950年代に誕生し、近年は機械学習や深層学習の進展により急速に精度が向上している。これを実現する手法のひとつであるニューラルネットワークは、生物の学習メカニズムを模倣したもので、人間の脳にあるニューロンと呼ばれる神経細胞の活動を参考にした機械学習手法として広く知られている。具体的には大量のデータを用いて学習し、その中から様々な特徴を自動的に抽出するもので、特に画像や音声の認識に優れている。←

現在は翻訳や対話など幅広い分野で活用されており、今後は倫理や安全性を重視しながら、人と協働する人工知能がさらに発展すると考えられる。←

以下の図1は、ニューラルネットワークをモデル化したものである。←

←

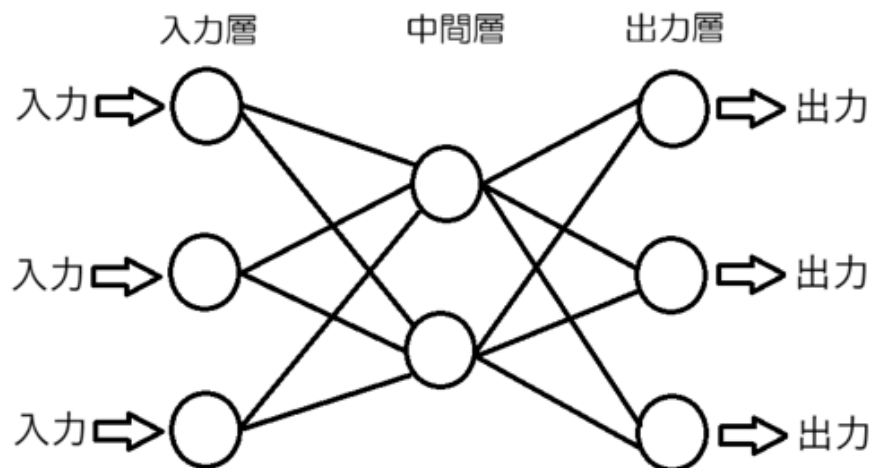


図1 ニューラルネットワークのモデル例

- (6) 全ての作業が終わったら、「Word」の画面左上の「上書き保存」のボタンをクリックして保存します。画面右上の「×」ボタンをクリックしないように気を付けなさい。

※以上で終了です。早く終わった人は、終了の指示があるまで静かに待っていなさい。